

## 新日本様式とは何かを考える

—美しい日本を新日本様式を通して考えよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 2007年は先週の土曜日と日曜日に、大学入試センター試験が行われました。昔は高校を卒業した方の10%ぐらいしか大学に進学しませんでした。それが年々上昇し、今は50%ぐらいになりました。短期大学や専門学校等を含めると、約74%の方々が高校卒業後に大学などの高等教育機関で勉強しています。これは、高等教育のユニバーサル化と呼ばれています。多くの人々が大学・短期大学・専門学校への入学に近づけるということで、ユニバーサル・アクセスという状態になっています。
3. ところで、今、ユネスコでは Education for All (Education は教育、for は～のために、All はすべての人という意味)、つまり「すべての人のために教育を」という運動をしていますが、もしかしたら日本を含む先進諸国は Higher Education for All (すべての人のために高等教育を) という国になっているかもしれません。
4. 放送をお聴きになっている皆さんや社会人の方で大学・短期大学・専門学校・大学院等でもう一度勉強したいと思われている方がいらっしゃいましたら、お近くの大学等にぜひお問い合わせ下さい。ホームページも見て下さい。社会人のためのコースが必ず用意されています。何歳になっても、例えば50歳になったら大学に行こう・60歳になったら専門学校に行こう・70歳になったら短期大学に行こうなどと考えて、それらを活用していただければと思います。
5. また、放送大学という大学も、栃木学習センターの名称で宇都宮大学峰キャンパスの図書館の横にあり、15歳以上であれば誰でも学ぶことができます。  
このように、大学・短期大学・専門学校等の高等教育機関は、高校を修了した直後の方たちだけが勉強するところではありません。すべての年代の方々が勉強するところのこれがこれからの高等教育機関であると思います。
6. ただ、それには前提条件があります。大学など高等教育機関で学ぶ学生は自分で学習すること、つまり自己学習が基盤です。1回90分の授業に対して2倍の180分の準備や復習など自己学習が求められます。高校卒業後の学校については自己学習能力を持っていることが前提になります。ですから、現在小学生・中学生・高校生の皆さんには、高校を卒業するまでに自分で学習する能力、つまり自己学習能力を身に付けることをお勧めします。これからの小学校・中学校・高校の教育の目

標は自己学習能力を身に付けることであり、その上で大学・短期大学・専門学校等に進み、生涯にわたって何度もそれらの学校を出たり入ったりして知識基盤社会(知識が基盤となった社会)で活躍することが大事ではないかと思えます。

7. 話は変わりますが、安倍首相は「美しい日本」と盛んにおっしゃっています。この美しさとは何かということ、やはり日本らしさではないかと思えます。そこで、私も日本らしさとは何かについて勉強していましたが、新日本様式という考えがあることがわかりました。新日本様式協議会という団体が、日本のブランドを高めて海外に発信しようという運動をしており、その活動を経済産業省が推進しているようです。私は今、新日本様式について勉強させていただいていますので、内容を少し紹介します。

8. 新しい日本の様式、つまり新日本様式の美しさを体現するためには次のものがあります。1つは、伝統文化が持っている価値をもう一度考え直すことを最低限のこととして行おうということです。武家のいろいろな言い伝え・精神文化・工芸品・芸能・建築や庭園などに見出されるデザインと機能などを、最先端の技術を駆使しながら現代の生活様式や社会的なニーズに合うように再提案して、新たな製品やコンテンツ(中身・内容)などを開発して提供すること。これが伝統文化が持っている価値を現代社会の中に解き放して、現代の視点から再提言するということであり、これぞ日本というものを生み出して「やはり日本はすばらしい」と世界の人々が日本の感性と技術力に共感する状況をつくり出すことが、新日本様式の目標であるとしています。

9. 2つ目は、日本らしさの多様性の中核にある日本人の自然観をすばらしいものだと考えることです。日本の文化には多様性(英語では **diversity**/ダイバーシティ)があり、日本らしさとは深く豊かな泉のようなものです。それはさまざまなものを自然の中で受け入れるということであり、日本人の自然観ではないかと思えます。ですから、日本人の自然観である和の心が、日本らしさ・日本のすばらしさの1つではないかと思えます。

10. 和の心の中身は、感性を養う心であると思えます。また、素材を自然の命として尊んで引き継がれた知恵や技を大事にしながら、新しい技術や文化をつくり出す「たくみのこころ」、全体への責任意識を持ちながら他人(相手)のために個性を磨いて気品と気概のある生き方を求める「ふるまいのこころ」、異質な考えや新しいものを尊重しながら自分を確立して、多様性と調和を重んじる「もてなしのこころ」、この3つが新日本様式の基本となる「こころ」であり、和の心の中身であると思えます。

11. これを、伝統文化と時代、日本的なる特別性、日本的なる普遍性と組み合わせることによって、最終的には新しい日本様式を **Neo Japanese** としてとらえることが新日本様式の考え方であると、私は理解しています。

安倍首相は「美しい日本」とよくおっしゃっていますので、放送をお聴きの皆さんも何が美しいのかということをお考えいただき、毎日の生活の中でそれを見出し、周りの皆さんに広めていただければ有難いと思えます。

—加筆・訂正、2013年2月12日、林 明夫記—